

久保沢も、地図を見ていた限りでは等高線がかなりこんでいると思ったのだが、入ってみたら平凡であった。

6:25大久保沢林道のゲート前に車を置いて沢に入る。ちょうど大久保沢が二俣にわかれる所である。まずは左俣から遡行を開始する。

平凡である。林道に並行してたんたんと流れるのみ。20分ほど遡ったところで林道は沢から離れていく。すぐ沢筋が暗くなって、岩場が出てきた。左岸から合流する支沢には小滝が見える。でも本流はずっと平凡なままである。

7:50源頭の湧水。一つの滝もかからないままで源頭に達してしまった。樹林帯の中をたどって、高笹山のピークをめざす。たいしたブッシュでもないので、楽に登ってゆけた。

8:20高笹山の3等三角点を確認して、大久保沢右俣にむけて下降開始。源頭の急斜面を下ると、すぐ沢筋に出る。細い流れが続いている。この右俣も平凡である。滝はかからない。炭焼き釜跡をみながらぐんぐん下る。1時間の下りで小さな砂防ダム。そしてその先は、左俣との出合であった。下降終了9:20。

(記・)

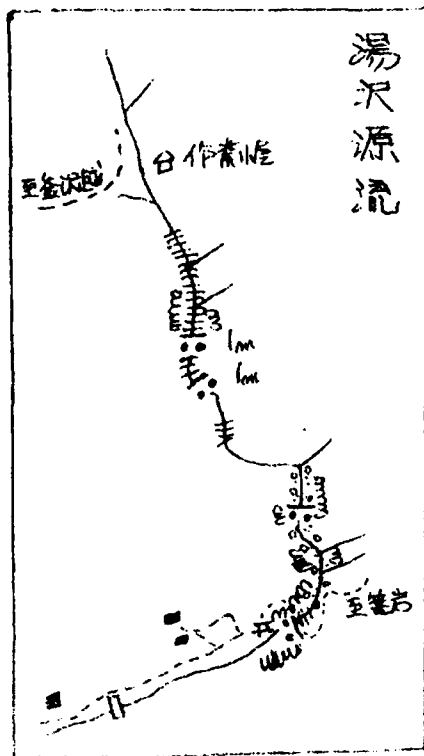
[タイム] 右俣遡行開始(6:25)→右俣終了(7:50)→高笹山(8:10, 8:20)→左俣下降終了(9:20)

奥久慈湯沢源流

1988年5月29日

L

もう10年以上にわたって子供達と山登りを続けているが、今日は特別記念すべ



き日である。子供達にとって初めての沢登りの日。その舞台として、奥久慈男体山塊の湯沢源流を遇んだ。難しい沢ではないが、二つの大きな滝(不動滝と抱返滝)、清冽な水の流れ、滑りやすい足元など、印象深かったようである。「沢登りをしている時、私は3回、修君は4回、すべて転んでしまいました。お父さんは経験があるから転びませんでした。とても楽しかったです。また行きたいです」と、香は「お山の日記」に書いている。

つつじが丘分岐近くに車を停めて出発。最奥の民家の庭先を失礼すると、いよいよ湯沢源流にそった登りとなる。小さな沢で水量も多くないが、水はとてもきれいである。右岸の道を進む。まもなく左岸に集塊岩の岩壁が出てくる。40m程の高さはある。そして不動

滝。狭い沢の行く手をさえぎるような岩壁の上から水しぶきとなって落下してくる。落差は30mくらいだが、沢が狭いので、見上げていると首が痛くなってくる。右岸上部の平らになったところに不動堂が建っている。民間信仰の霊場であったようだ。

不動滝を右岸から捲いて上部に出る。いよいよ湯沢源流の登りである。兩岸より岩壁が迫り、暗い。沢には集塊岩の大岩がゴロゴロと積み重なり、ちょっとしたゴーロ帯となっている。ところどころに踏跡があるが、それは無視して、ずっと沢の中を進む。こんな時集塊岩は楽である。ホールド、スタンスは無数にあるから。

竈岩方面への分岐を過ぎると、沢はやや明るくなって来る。そして抱返の滝。7mほどの落差で、右岸にかけられた鉄はしごを使って越える。子供達は滝壺にかかっていた虹に歓声をあげた。

抱返の滝の上部で左岸から支沢が合流する。集塊岩の大岩がゴロゴロしているのはここまで。ここからはナメの多い静かな流れが続く。滝は1mくらいのが時々出てくるが、ここらあたりからはもう源流の装いである。沢の左右には杉林が広がるようになり、上流になって人くさくなってきた。

やがて左岸に作業小屋が見えてくる。ここで沢から上がり、釜沢越から佐中へ戻るのが、湯沢源流遡行の通常コース。我々はもう少し奥へ10分程つめてみたが、何の変化もないので引き返して遡行終了とする。(

[タイム] 佐中(8:50)→不動滝(9:00)→抱返の滝(9:40)→作業小屋(10:55)→釜沢越(11:00, 11:20)→佐中(11:40)

朝日連峰八久和川

1988年9月22～24日

L:

9月22日 福島(20:30)⇒バカ平(23:40)

福島出発20:30。3時間余でバカ平到着。林道わきにテントを張り、仮眠。

9月23日 バカ平(6:15)→八久和川出合(10:15, 10:45)→オツボ沢出合(11:10)
→小鱒滝(12:35)→呂滝(14:20)→西俣沢出合(15:30)→幕営地(17:00)

6時15分出発。天狗角力取山を経て、10時15分八久和川出合に到着。身支度を整えて、10時45分遡行開始。

30分程河原を歩くと、最初のゴルジュ帯となる。左岸を捲いてゆくと、オツボ沢が7mの滝をかけて合流している。ここでいったん沢に下り、今度は右岸を捲く。沢通しは20mほどの廊下で、水流も早く、泳ぐのは難しい。このあとも腰から胸までの波渉やへつりの繰り返しで進む。

12:35小鱒滝に到着。ここは右岸のウシ沢の滝を越えて、本流に戻る。広河原を経て、4m滝の右岸を捲くと、2段となった呂滝。ここは手前にある7m斜瀑の落ち口を横切ってから、右岸を捲く。

15:30西俣沢出合到着。水量比は1:1である。左へ。水量はないが切り立った廊下状となる。そして東俣沢・中俣沢の分岐。そろそろビバーク地を探さねばならないが、連瀑帯となって小滝や7～8mクラスの滝が次々と現われる。徐々に暗くなる中、17:00ビバークに入る。

9月24日 曇。午後から雨となる。幕営地(7:00)→二俣(10:15)→狐穴小屋(1